参考資料編

資料１　沿岸域総合管理の総括（とりまとめ）について …… 99
資料２　委員会の記録 …… 101
資料３　モデルサイトにおける取組みに関する資料 …… 103
1)　大村湾
1.　第３期大村湾環境保全活性化行動計画(抜粋) …… 103
2)　竹富町
1.　竹富町海洋基本計画(抜粋) …… 106
3)　志摩市
1.　里海創生推進会議リーフレット …… 109
2.　志摩市協議会体制再検討資料 …… 113
3.　里海入門講座 …… 115
4.　全国アマモサミットキックオフシンポジウム …… 117
4)　小浜市
1.　みんなで海を活かしたまちづくりを考えよう 2016（抜粋） …… 119
5)　備前市
1.　協議会・組織イメージ …… 121
2.　沿岸環境関連学会連絡協議会シンポジウム・
全国アマモサミット 2016 in 備前 …… 123
3.　ｵｰｼｬﾝﾆｭｰｽﾞﾚﾀｰ 386 号（全国アマモサミット 2016 in 備前） 128
4.　海洋立国推進功労者表彰 …… 130
5.　地域をつなぐ里海・里山交流シンポジウム …… 131
6)　宿毛湾（高知大学含む）
1.　高知大学・キックオフシンポジウム …… 133
2.　ｵｰｼｬﾝﾆｭｰｽﾞﾚﾀｰ 378 号（高知大学農林海洋科学部） …… 134
7)　宮古市（岩手大学含む）
1.　岩手県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例…… 136
2.　宮古市台風 10 号被害状況 …… 139
3.　宮古市津波避難計画、津波避難所開設・運営マニュアル(抜粋)… 141
4.　ｵｰｼｬﾝﾆｭｰｽﾞﾚﾀｰ 388 号（岩手大学農学部水産コース） …… 150
5.　ｵｰｼｬﾝﾆｭｰｽﾞﾚﾀｰ 398 号（大震災から持続可能なまちづくり） …… 152

資料４　参考サイトにおける取組みに関する資料 …… 154
1)　東京湾
1.　東京湾再生官民連携フォーラム　PT リーフレット …… 154

資料５　総合海洋政策本部参与会議 総合的な沿岸域の環境管理の在り方 PT 報告書
(平成 29 年 2 月 16 日発表) …… 158

資料６　モデルサイトおよび他の参考事例における沿岸域総合管理の進捗状況 …… 183

沿岸域総合管理の総括（とりまとめ）について

１．（仮称）海を活かしたまちづくり読本のコンセプト

今までのアウトプット[1]を補完し、より実践に活かせる資料の作成を目指す。読者の対象は、広く一般市民から漁業者、産業・企業、行政など沿岸域総合管理を実践するステークホルダーとする。

内容は、沿岸域総合管理について理解し、取り組もうと意欲を掻き立てる「読み物」、実際に沿岸域総合管理に取り組んでみようとする人々が具体に行動を起こすための「ガイドブック」、さらには、問題の解決に役立つ今までの経験が詰まっている「虎の巻」を目指すものとする。

（仮称）海を活かしたまちづくり読本の狙いのイメージ図

---

[1] 事業報告書（2010 年~）
沿岸域総合管理入門（2016 年）
沿岸域総合管理の推進に関する政策提言（2015 年）
パンフレット（適宜）
ICM ブログ（2010 年~）
映像記録（2011 年~）
2011：ICM とは何か、進行する ICM への取組み、沿岸域に生きる
2012：沿岸域総合管理 ICM の広がり 2012、岩手復興と沿岸域総合管理
2013：各モデルサイトの取り組み、市民によるまちづくりの展開
2014：地方自治の再生に向けて、各モデルサイトの取り組み、英語版
2015：「海を活かしたまちづくり」2015 沿岸域総合管理の取り組み、英語版

２．（仮称）海を活かしたまちづくり読本のコンテンツ例

（１） 読み物として

事例を用いて、沿岸域総合管理の方向性や効果、使われ方などを理解いただけるように提示する。例えば、

- 水質汚染への対応から始まった英虞湾の研究プロジェクト、その中で模索されてきた干潟再生。市長の英断により「新しい里海のまち志摩！」をスローガンに始まった志摩市の沿岸域総合管理。沿岸域総合管理計画の策定、協議会の設置により、3 つの事業が推進されてきた。今、次なる展開を目指して市と、市民が柔軟に連携する方策を模索し、観光と商工が連携した海の町おこしが計画されている。
- 海の環境の異変に気が付いた漁業者が、研究者に相談し、アマモ場再生に向けた取り組みを進めていく中で、漁業者の協議会、生活協同組合などとの連携、学校教育への支援と生徒の体験活動への広がりを見せた 30 年の歴史。今、備前市として「里海・里山ブランドの創生」を目指す協議会の設置により、ICM を用いて、地域の生業や人のつながりを育てる取組みが始まっている。
- 鯖街道の海の拠点である小浜市。高校生が湾の水の悪化に気づき、アマモ場再生に取り組み始めた。それを支援する市民グループ、有識者、行政が連携して機動力のある協議会を立ち上げた。その中には、「未来会議」も設置され、次世代を担う若者が主役となる活動が展開されている。

（２） ガイドブックとして

- 海陸を一体とした状況把握：対象領域の設定方法、調査方法（海の健康診断、森川海の総合診断など）、専門家の関与
- 地域の関係者による合意形成： 研究会の開催、ワークショップの実施、イベント開催のための準備会合、シンポジウムなどによる啓発、協議会の体制構築と運営
- 関連計画との整合に配慮した沿岸域総合管理計画の策定：関連計画、沿岸域総合管理計画の骨子、ビジョン設定、行動計画、成果の評価
- 順応的管理による事業実施：事業実施体制の構築、事業実施計画の策定、事業実施（進捗管理）
- 沿岸域総合管理計画の評価と見直し：目標の評価、実施事業の評価、提言の作成、計画改訂

（３） 虎の巻として

- 日本の事例、世界の事例
- 沿岸環境の再生技術（生物生息場、環境改善、、、）
- 沿岸域の管理法制（海岸法、港湾法、水産基本法、漁業法、、、）
- 国際枠組み（UNCED、CBD、UNFCCC、SDGs、、、）

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

SPF 笹川平和財団
OPRI 海洋政策研究所

２０１６年度 第１回 沿岸域総合管理モデルの展開に関する調査研究委員会　議事次第

日時：　２０１６年7月２８日（木）
　　１４：００～１６：００
場所：　東京都港区虎ノ門１－１５－１６
　　笹川平和財団ビル６階６０１会議室

１．開会

２．報告
　２０１５年度事業実施報告（参考２~５）

３．議事
　（１）２０１６年度事業実施計画（案）について（資料２）
　（２）入門的研修等の実施（資料３）
　（３）ネットワーク会議の開催（資料４）
　（４）大学及び大学院における人材育成支援（資料５）
　（５）情報発信、情報共有の実施について（資料６）
　（６）沿岸域総合管理のとりまとめと今後の方向性について（資料７）
　（７）その他

４．閉会

資　料

資料１　沿岸域総合管理モデルの実施に関する調査研究委員会委員名簿
資料２　２０１６年度の実施計画（案）
資料３　沿岸域総合管理入門的研修（案）
資料４　沿岸域総合管理ネットワーク会議（案）
資料５　大学及び大学院における人材育成支援（案）
資料６　情報発信、情報共有の実施計画（案）
資料７　沿岸域総合管理のとりまとめと今後の方向性について（案）

参考１　「2015 年度沿岸域総合管理モデルの実施に関する調査研究報告書」
参考２　「2015 年度海洋・沿岸域総合管理を担う人材育成に関する調査研究報告書」
参考３　「沿岸域総合管理入門」
参考４　DVD: 地方創生「海を活かしたまちづくり」2015　沿岸域総合管理の取組み
参考５　沿岸域総合管理の推進に関する政策提言
参考６　アウトリーチ関連資料(新聞報道記事等)

2016 年度　第 3 回沿岸域総合管理モデルの展開に関する調査研究委員会　議事次第

日時：　2017 年 3 月 3 日（金）
　　10：00～12：00
場所：　東京都港区虎ノ門 1－15－16
　　笹川平和財団ビル 5 階　会議室

１．開会

２．議事
⑴ 沿岸域総合管理モデルの展開に関する調査研究
(1-1) 第 1 回委員会の議事録（案）の確認について（資料２）
(1-2)情報発信について　（資料３）
(1-3)シンポジウムや学会等への参加について　（資料４）
⑵ モデルサイトにおける実施支援について
(2-1)協議会及び研究会等への参加について（資料５、参考２）
(2-2)入門研修及び勉強会等の実施について（資料６）
(2-3)ネットワーク会議(第 2 回委員会を兼ねる)の開催報告について（資料７）
⑶ 大学及び大学院における人材育成支援について（資料８）
⑷ 2016 年度報告書(案)について（資料９）
⑸ その他（参考 3、参考 4 他）

３．閉会

資　料

資料１　沿岸域総合管理モデルの実施に関する調査研究委員会委員名簿
資料２　第 1 回委員会議事録（案）
資料３　情報発信について
資料４　シンポジウム・学会等の参加・発信について
資料５　各サイトの進捗報告（資料 5-1～5-10）
資料６　沿岸域総合管理入門研修・勉強会等の実施概要
資料７　沿岸域総合管理ネットワーク会議実施概要
資料８　大学・大学院における人材育成支援
資料９　2016 年度報告書（案）

参考１　2016 年度の実施計画
参考２　モデルサイト動向（宮古市：オーシャンユーズレター398 号）
参考３　沿岸域総合管理の総括（とりまとめ）について
参考４　参与会議　総合的な沿岸域の環境管理の在り方 PT 報告書　概要

第３期大村湾環境保全･活性化行動計画

― みらいにつなぐ“宝の海”大村湾 ―

平成２６年３月

長崎県

【第３期大村湾環境保全・活性化行動計画　目次】

前 文

第１章　第２期大村湾環境保全・活性化行動計画の評価

１　第２期行動計画の概要 …… １
２　第２期行動計画の実績 …… ２
３　第２期行動計画の目標達成状況 …… ３

第２章　大村湾の現状と課題

１　水質 …… ５
２　貧酸素水塊 …… ７
３　生態系の状況 …… ８

第３章　第３期大村湾環境保全・活性化行動計画の基本的事項

１　第３期行動計画の目標 …… ９
２　第３期行動計画の水質目標 …… １０
３　第３期行動計画の方向性 …… １０
４　第３期行動計画の重点施策 …… １１
５　第３期行動計画の体系と施策体系 …… １３
６　第３期行動計画の指標 …… １５
７　第３期行動計画の期間 …… １５

第４章　施策の展開

１　山から海まで一体となった里海づくり
（１）生活排水等の流入負荷抑制 …… １６
（２）面源からの流入負荷抑制 …… １７
（３）貧酸素水塊、底質悪化等への対策 …… １８

２　生物多様性の保全による里海づくり
（１）生態系の調査 …… １９
（２）希少動植物等の保護 …… ２０
（３）生物の生息場整備 …… ２１

３　賑わいのある里海づくり
（１）水産業の振興 …… ２２
（２）農林業の振興 …… ２３
（３）観光業・スポーツの振興 …… ２４
（４）大村湾産品等の消費拡大 …… ２５

４　みんなで取り組む里海づくり
（１）環境への配慮 …… ２６
（２）自然とふれあう機会の創生 …… ２７
（３）地域連携等の取り組み …… ２８
（４）流域自治体との連携 …… ２９

第３期大村湾環境保全・活性化行動計画　指標一覧 …… ３０

第５章　第３期大村湾環境保全・活性化行動計画の進捗管理
…… ３１

付属資料

資料１　大村湾の概況 …… ３２
資料２　第２期行動計画に係る主な成果 …… ４１
資料３　用語の解説(注 1～注 55)…… ４５

竹富町海洋基本計画

～日本最南端の町（ぱいぬ島々）から海洋の邦日本へ～

平成 23 年３月

竹　富　町

はじめに

第１編　序編

第１章．竹富町海洋基本計画の理念

第１節　竹富町海洋基本計画の理念…… １
第２節　竹富町の現状（国家的役割と課題）…… ３
第３節　竹富町の目標と将来像…… ７

第２章．海洋基本計画の背景

第１節　竹富町総合計画…… ８
第２節　海洋基本法と海洋基本計画（国）……１１
第３節　沖縄振興特別措置法と沖縄 21 世紀ビジョン ……１３

第２編　竹富町海洋基本計画

第１章．施策体系

第１節　施策項目と目標……１６
第２節　施策体系……１８
第３節　実施スケジュール……２０

第２章．施策内容

第１節　先導やること項目……２１
第２節　継続やること項目……３２

第３編　関連資料

１．竹富町海洋基本計画策定委員会……４６
２．計画策定の経緯……４８
３．用語の説明……４９
４．竹富町が関与する排他的経済水域の推定……５５
５．竹富町の関与する海域範囲等……５７
６．竹富町海洋フォーラム２０１０……６０
７．海洋基本法（原文）……６５
８．海洋基本計画（国、原文）……７３

第１章

竹富町海洋基本計画の理念

第１節　竹富町海洋基本計画の理念

竹富町は、日本国内および沖縄県内でも特有な自然と文化を持つ世界に誇れる**“日本最南端の大自然と文化の町”**です。

また、竹富町は、東西 42km、南北 40km の海域に 16 の島々と 9 つの有人島で構成される**“日本最南端の島嶼型海洋自治体”**で、島々の自然と文化も多様性に富んでいます。このような竹富町では、**“海洋環境の適切な管理”**が**“持続可能な地域社会”**を形成して行く上で必須のテーマです。

さらに竹富町は、排他的経済水域の基線となる有人島の波照間島、無人島の仲御神島がある**“国境離島自治体”**でもあります。

これら海洋と一体化した島々で生活を営むことそのものが、美ら海および美しいぱいぬ島々を守り、海洋立国に貢献するものです。

竹富町と町民は、ふるさとの美ら海と美しいぱいぬ島々を未来に残し、また海洋立国に貢献するために、我が国自治体初の**“竹富町海洋基本計画”**を**“自ら創り”**、**“自ら活動”**することとしました。

“竹富町海洋基本計画”の理念

～ふるさとの美ら海と新たな海洋立国への貢献～

1. 島々と一体的な**“海洋環境の適切な管理”**を行い我が国の貴重な財産である**“自然と文化”**を守ります。
2. **“島嶼型海洋自治体”**の課題にとりくみ、**“安全で安心な生活”**を築きます。
3. **“安全で安心な生活”**を築くことで、**“国境離島”**としての役割を果たします。
4. **“全国の海洋自治体のモデル”**となる活動を行います。
5. **“八重山広域圏の一員”**として、石垣市と与那国町と強い絆をもって活動します。

稼げる! 学べる! 遊べる!
新しい里海のまち・志摩

「新しい里海創生によるまちづくり」とは、市民が一体となって山から海までの自然を損なわないように、時代に合わせた保全や利用を進めることです。その結果「人と自然が共生するまち」というイメージをつくり、志摩市そのものをブランド化することを目的としています。

計画書の表紙は、自然の恵みの中から得られる真珠のように素晴らしい地域の資源をつなぎ合わせ、志摩市の地域イメージをつくり上げて行くことを表現しています。

志摩市がめざすすがた

志摩市は地域の自然にしっかりと向き合い、たくさんの生き物が生息できる環境を守りながら、環境に負荷の少ない生活スタイルを心掛けることで、豊かな自然の中で、健康で幸福に生活することができる社会をつくっていくことをめざしています。

取り組みの内容

自然の恵みを守り、利用し、地域の良いところを
引き出すさまざまな取り組みをみんなで進めましょう。

『自然の恵み』の保全と管理

「核」となるもの

私たちの生活や産業を支えているのは豊かな海や川、森林などから得られる「自然の恵み」です。その恵みを守るために自然の仕組みを理解し、自然に負荷をかけない生活スタイルを心がけましょう。

里海とともに生きてきた志摩市の歴史や文化について学ぼう

古くからつづく漁業

志摩市の美しい景観を守ろう

リアス式海岸

干潟や藻場など、たくさんの生き物が生息できる場所をつくろう

藻場(もば)の再生

沿岸域資源の持続可能な利活用

（稼げる里海の創生、学べる里海の創生、遊べる里海の創生）

「真珠層」となるもの

『稼げる里海』の創生

自然の恵みや歴史や文化など、地域の資源を活かし関係者が連携して持続可能な産業をめざしましょう。

作り育てる漁業の取り組みをひろげよう

太めの網を使用し、漁獲量を自主的に規制

豊かな森林資源の活用に取り組もう

豊富な森林資源を利用した薪や炭

志摩市の地域資源を活かした「新しい観光」に取り組もう

小宿ならではのおもてなし

「輝き」を放つもの

地域の魅力の向上と発信
（地域ブランディング）

取り組みのイメージを真珠に例え、核となる取り組みを「自然の恵み」の保全と管理、真珠層となる取り組みを地域資源の持続可能な利活用とし、最終的に志摩市の輝きとして地域の魅力の向上と発信が可能になることを表しています。

新しい里海の素晴らしさを知ってもらうため、みんなが新しい里海創生によるまちづくりに誇りを持ち、その情報や魅力を発信しましょう。

「新しい里海」の目標について
みんなで話し合おう

「志摩ブランド」をつくるための話し合い

たくさんの人に志摩市の
情報や魅力を発信しよう

手こね寿司

『学べる里海』の創生

里海とは何か、自然の恵みを損なわないように保全と利用を進めるために必要なことを学びましょう。

子どもから大人まで里海について
学べる機会をつくろう

生き物観察会

里海について学べる
観光ツアーをつくろう

海女小屋体験

『遊べる里海』の創生

多彩なマリンレジャーや豊かな潮の香りが満喫できるまちとして、すべての市民や来訪者が楽しめるようにしましょう。

たくさんの人が海を利用できる
ようなルールをつくろう

英虞湾でのカヌー体験

志摩市の海岸を
みんなで綺麗に掃除しよう

浜掃除

掲載されているのは取り組みの一例です。詳しくは計画書をご覧ください。

取り組みの進め方　地域の関係者がみんなで話し合って、取り組みます。

「新しい里海創生によるまちづくり」は、地域の関係者がみんなで話し合い、連携して取り組みを進めます。

- 「志摩市里海創生推進協議会」を設置し、取り組みの進めかたを話し合います。
- 市民や関係団体、事業者などがそれぞれ自主的にできることをすすめます。
- 特性が異なる３つの区域※ごとに、その区域の特性に合わせて取り組みを進めます。

※３つの区域：英虞湾、的矢湾、太平洋（熊野灘）の３つの沿岸域のことを示します。

お問い合わせ

● 本計画の内容をもっと知りたい方へ

志摩市里海創生基本計画は、志摩市ホームページ（http://www.city.shima.mie.jp/）でもご覧になれるほか、志摩市役所の本庁及び各支所や図書館（室）等で閲覧していただけます。

● 取り組みに興味がある方へ

（個人の方）

新しい里海創生によるまちづくりに関する情報は、今後「広報しま」や志摩市ホームページ等を通じて発信して行く予定です。

詳しくは志摩市農林水産部里海推進室までお問い合わせ下さい。

（法人の方）

志摩市の新しい里海創生によるまちづくりへの参加やＣＳＲ活動を検討したいとお考えの場合には、志摩市農林水産部里海推進室までお問い合わせください。

詳しくは、「志摩市里海創生基本計画」をご覧ください。

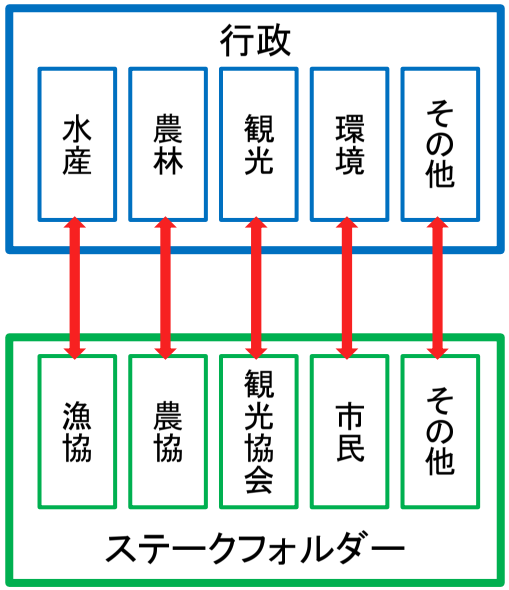
志摩市 農林水産部 里海推進室

TEL: 0599-44-0206
mail: satoumi@city.shima.lg.jp
〒517-0592
三重県志摩市阿児町鵜方 3098-22

資料 3-3-2

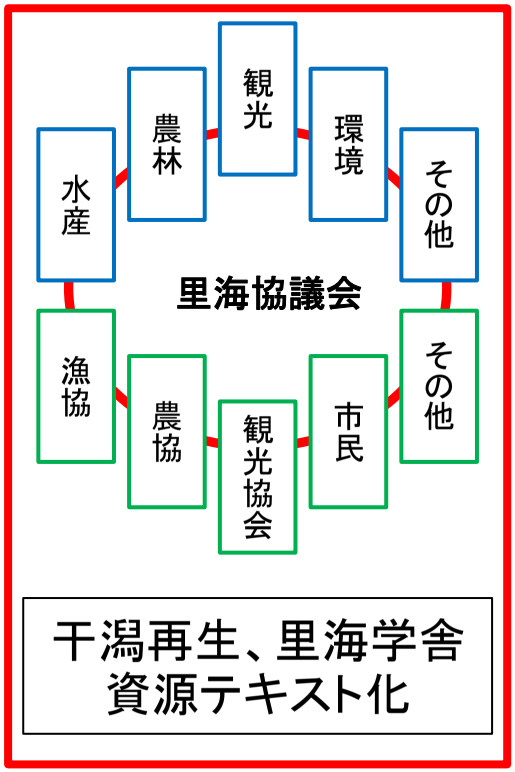
～平成23年度

従来のまちづくりは、分野ごとに目標を定め、縦割の関係の中で実施されてきた



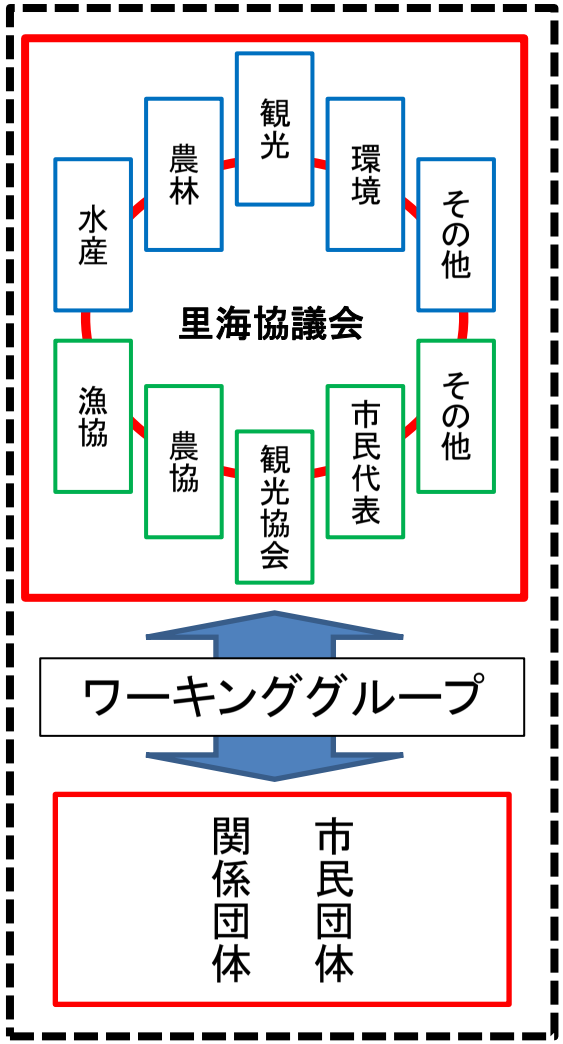
平成24～27年度 第1次計画期間

関係者間で目標は共有出来たが、市民を巻き込んで積極的に取組みが展開されるところまで到達出来なかった



平成28年度～ 第2次計画期間

目標を達成するための取り組みを市民団体とともに実施していく仕組み（WGの設置）を構築し、まちづくりを進める。



東京湾再生官民連携時フォーラム体制

東京湾再生推進会議

■メンバー
行政（国・自治体）

・目標の設定
・行動計画の策定（とりまとめ）
・全体の進捗について確認・検証
・先進的な取組の検討

連携　提言

東京湾再生官民連携フォーラム

レジャー
行政
水産
NPO
企業
研究者

支援・報告・相談等

プロジェクトチーム（PT）

東京湾環境モニタリング推進PT
江戸前ブランド育成PT
生き物生息場つくりPT
東京湾大感謝祭PT
東京湾再生のための行動計画の指標の活用PT
東京湾での海水浴復活の方策検討PT
東京湾パブリック・アクセスPT
東京湾浅瀬再生実験PT
東京湾の窓PT

・純粋な社会貢献
・ビジネスの創出

志摩市里海創生推進協議会体制

国・県・市

要望・提言

里海創生推進協議会

行政
市民団体
農協
自治会
漁協
有識者等
商工会
観光協会

「何が問題なのか？」
「どう解決するのか?」
を検討する。
（まちづくりの舵取り役）

提案・支援・報告・相談等

ワーキンググループ（WG）

・まちづくりの目標（里海基本計画）と課題解決の方向性（協議会が承認した方向性）を共有し、自らが取り組む人の集まり。

（例）

太陽光発電への対応WG
まちづくりのモデル化WG
海辺の環境（干潟・藻場再生）づくりWG
里海学舎構想WG
地域資源のテキスト作業WG

平成28年度　志摩市生涯学習特別講座

里海入門講座

もっと志摩を好きになる！

ライフスタイルのヒント
見つけませんか・・??

「里海ってなに?」から「里海っておもしろい!」となるよう、みんなで「里海づくり」について考えませんか。

受講期間：平成２８年８月～１２月
（全５回）

開講日時：第２火曜日（月１回）
１９時から２０時

受講
無料

会場　：鵜方公民館　小会議室１（旧図書室）
募集人数：10人程度
申込方法：①名前　②年齢　③性別　④住所　⑤連絡先を
下記までお知らせください。
※いただいた個人情報は本事業の実施にのみ使用します。

【申込・問合先】
志摩市教育委員会事務局
生涯学習スポーツ課
TEL　44-0339
FAX　44-5263

■ky-sgakuspo@city.shima.lg.jp
■閉庁日：土・日・祝日
■受付時間：8時30分～17時15分

各講座紹介

	開講日	テーマ	講座名	担当課
第1回	8/9(火)	志摩を知ろう！	志摩ってどんなところ？	里海推進室
			ごみ減量・リサイクルの促進について	ごみ対策課
第2回	9/13(火)	日常生活から考える志摩	下水道物語	下水道課
			豊かな里海を支える「生物多様性」ってなんだろう？	環境課
第3回	10/11(火)	志摩の魅力再発見！その①	志摩市の漁業の実態とその資源管理	水産課
			志摩の農産物の魅力について	農林課
第4回	11/8(火)	志摩の魅力再発見！その②	世界に誇る観光地志摩の魅力	観光商工課
第5回	12/13(火)	つなげよう！志摩！！	学校での取り組みについて	学校教育課
			志摩のファンを増やそう！	里海推進室

※詳しくは志摩市教育委員会事務局　生涯学習スポーツ課までお問い合わせください。

全国アマモサミット 2017in 伊勢志摩　キックオフイベント
「豊かな海の再生に向けて　～みんなでやろや！～」
企画書

主催：志摩市

目的：①市民に「全国アマモサミット 2017in 伊勢志摩」の開催を告知すること。
②アマモサミットだけでなく、干潟やアマモ場の再生など海の環境再生に向けた取組みに参加する市民を増やすこと。

日時：平成 29 年 3 月 20 日（月・祝）午後 1 時～4 時 45 分

場所：阿児アリーナ・ベイホール

プログラム

13:00	開　会	
13:05 13:10	挨　拶	全国アマモサミット 2017in 伊勢志摩大会長／志摩市長　竹内千尋
13:10 14:30	基調講演	NPO 法人海辺つくり研究会理事　木村　尚さん テーマ：「もっとにぎやかな伊勢志摩にしようよ！」 ～地域をつなぐ里海づくり～アマモ場再生がつなぐ海と人、人と人 ※　アマモサミットの開催を主導してきた NPO 法人「海辺つくり研究会」の事務局長であり、人気テレビ番組「ザ！鉄腕！ＤＡＳＨ！！」で干潟やアマモの再生活動、生き物観察の指導をしている木村さんに、海の素晴らしさや実際に海と触れ合うことの楽しさを参加者に伝えてもらう。
14:30 14:50	発表１	三重県水産研究所鈴鹿水産研究室主査研究員　国分秀樹さん テーマ：「アマモってすごい！」（仮称） ※干潟やアマモ場の再生に関する研究者として、アマモがどういう植物なのか、海の中でどんな役割を果たしているのかをわかりやすく説明してもらう。
休憩		

15:00 16:30	パネル ディスカ ッション	コーディネーター：アマモサミット 2017in 伊勢志摩実行委員長 西尾　新さん パネリスト： ※海の素晴らしさを伝える達人 NPO 法人海辺つくり研究会理事　木村　尚さん ※アマモと人との関わり、海の博物館での取組み紹介 海の博物館学芸員　平賀大蔵さん ※的矢湾の現状とこれまでのアマモ再生の取り組み紹介 鳥羽磯部漁業協同組合の漁業者　（調整中） ※アマモ再生に関する技術的なアドバイス 三重県水産研究所鈴鹿水産研究室主査研究員　国分秀樹さん ※市内の海の現状を参加者が再認識し、アマモ再生を始めとする自然環境の保全活動に「みんなで取り組もう」という流れを作り出すことを目的とします。
16:30	事務連絡	海の環境保全に関するイベント等に関する情報配信登録に関する告知（里海推進室） ※今後干潟や藻場の再生活動に関する情報を直接関心のある市民に伝えるため、情報配信先の登録について説明します。
16:45	閉　会	アマモサミット 2017in 伊勢志摩実行委員長　西尾　新

その他

パネル展示：干潟やアマモ再生に関する取組み紹介パネルなど

・伊勢湾や鳥羽市、岡山県備前市、福井県小浜市などの取組み紹介

・これまでのアマモサミットの紹介

託児所の設置を検討中

みんなで海を活かしたまちづくりを考えよう 2016

～研究者と市民の目線で～

日程　　7 月 18 日（月曜日）＜全 1 回＞

時間　　13 時 00 分～17 時 00 分

場所　　福井県若狭図書学習センター　講堂

みんなで海を活かしたまちづくりを考えよう　2016
－研究者と市民の目線で－

小浜に立地する海洋生物資源学部の研究成果と地域住民による環境保全活動や町おこし運動を有機的につなげ、今後海を活かしてどのようにまちづくりができるかを研究者と市民の目線で議論していきたいと思います。

日時　2016 年 7 月 18 日（月）　13：00～16：40
場所　若狭図書学習センター　多目的ホール

13:00　開会挨拶と趣旨説明　富永　修（海洋生物資源学部）
13:10　小浜を代表する特産物　小鯛ささ漬けと若狭かれいおよびへしこを応援する研究紹介
松川雅仁（海洋生物資源学部）
13:30　産学官が一体となった養殖業への挑戦　宮台俊明（海洋生物資源学部）
13:50　森の恵みと海の恵みを活かして米と魚をつくる
富永　修（海洋生物資源学部）

14:10～14:25　休憩

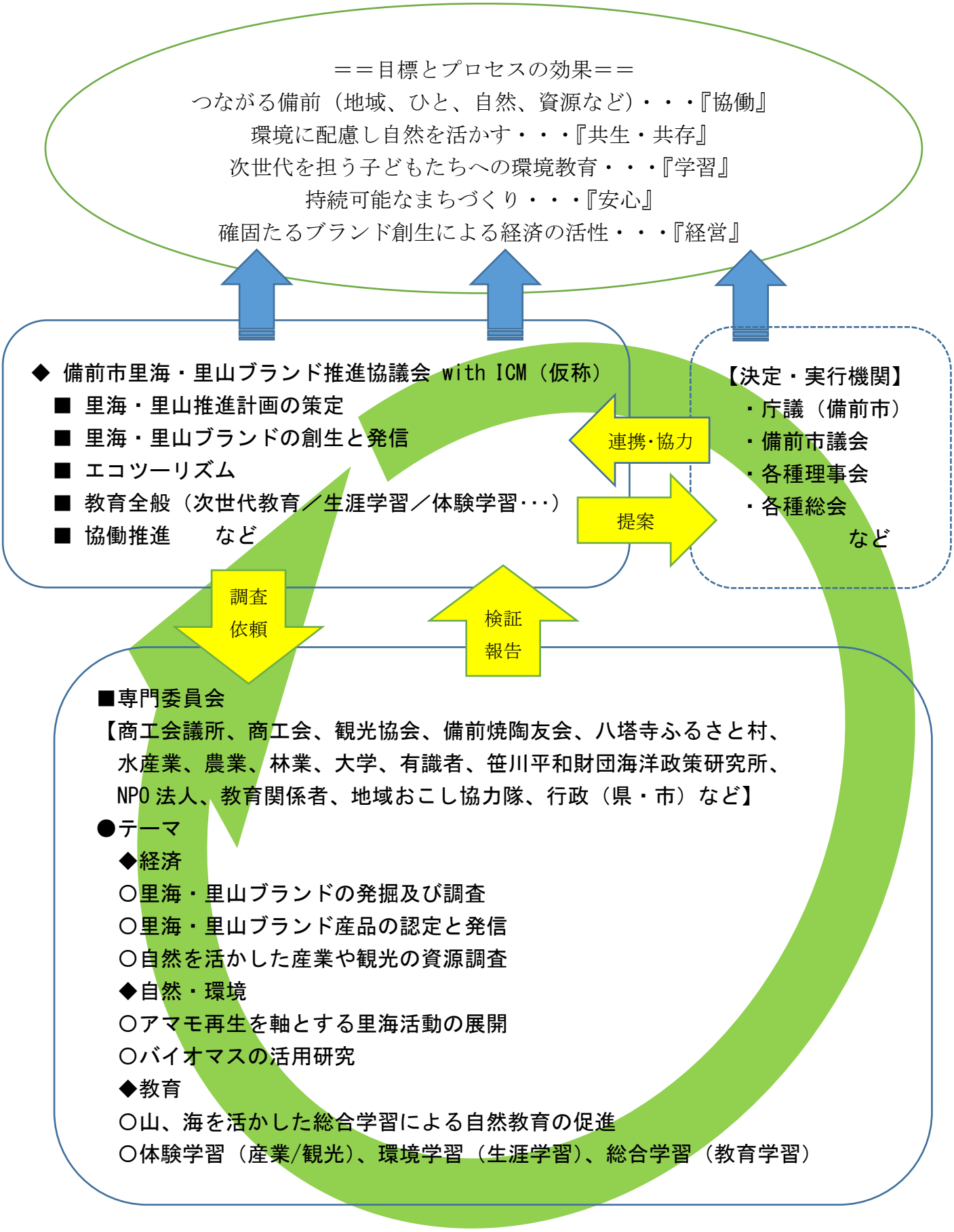
14:25　高大連携からみる福井県立大学の貢献　小坂康之（若狭高校）
14:45　小浜湾の環境を考える。アマモマーメイドプロジェクト、その後
西野ひかる（一般社団法人うみから）
15:05　小浜市「鯖、復活」プロジェクト～住民・大学・行政が寄れば文殊の知恵～
御子柴北斗（小浜市役所）

15:25～15:40　休憩

15:40　パネルディスカッション
16:30　閉会の挨拶　宮台俊明（海洋生物資源学部）

＝資源を活かしたまちづくり＝

第 2 次 備前市総合計画　施策 7-2 「沿岸域総合管理」



PDCA サイクルにて段階的、継続的に実施

備前市里海・里山ブランド推進協議会　組織イメージ

備前市里海・里山ブランド推進協議会

協議会委員は備前市長が委嘱

【構成】
行政及び市内関係団体等

【アドバイザー】
笹川平和財団海洋政策研究所・NPO法人里海づくり研究会議・国・県　等

幹事会委員推薦
調査・依頼

各種策定案
検証・報告

備前市里海・里山ブランド推進協議会　専門委員会

協議会委員推薦の実務者による協議

【構成】
行政・市内関係団体・まちづくりに関わるあらゆる団体、企業　等

【アドバイザー】
笹川平和財団海洋政策研究所・NPO法人里海づくり研究会議・国・県　等

【応援団】
ふるさと納税企業各社
認定NPO法人共存の森ネットワーク
公益財団法人おかやま環境ネットワーク
生活協同組合おかやまコープ
包括連携協定機関
各種大学･研究機関
備前市地域おこし協力隊
各種NPO法人　等

コア研究
実務調査

実施報告
検証報告

専門部会　**専門部会**　**専門部会**　・・・

専門委員会委員と、応援団、関係者によるコア研究及び実働部隊

【研究テーマ】
■産業経済部会　【稼ぐ、成り立つ、持続可能性】
○里海・里山ブランドの発掘及び調査
○里海・里山ブランドの認定と発信
○自然を活かした産業や観光の資源調査（エコツーリズム、産業観光等）
■自然環境部会　【守る、引き継ぐ、協働】
○アマモ再生を軸とする里海活動の展開
○ブルーカーボンやバイオマスの活用研究
■文化教育部会　【学ぶ、楽しむ、育む】
○山、海を活かした総合学習による自然教育の促進
○環境学習（生涯学習）、総合学習（教育学習）による地域連携
など

沿岸環境関連学会連絡協議会

第32回 ジョイント・シンポジウム

我が国沿岸域におけるアマモ場再生への道

～これまでとこれから～

開催日 2016年 6月3日㊎ 9:30～17:30

会場：日生町漁業協同組合 2階 多目的研修室
（岡山県備前市日生町日生 801-4）

我が国におけるアマモ場は,高度経済成長期を経て沿岸地域の埋立および都市化・工業地帯化とそれに伴う汚染によって激減した. アマモ場は,多種多様な有用魚介類の保育場,再生産の場として欠くべからざるものであるとともに,沿岸・内海域の栄養分を分解・吸収し生物生産に振り向ける核として重要な役割を果たしていると考えられ,その消滅は直接,間接に漁業資源や海洋環境に重大な悪影響を及ぼしている. 環境省の調査によると,1978年から1991年までの13年間の海藻藻場と海草藻場の消失面積は10,416haである.このうち2,077ha（消滅藻場の約20%）がアマモ場で,消滅の原因は主に埋立によるものである. 1991年の現存藻場面積は315,876ha（アマモ場:49,464ha)で,瀬戸内海では70%以上もの藻場が消失した（相生,1998）. アマモ場の再生は主に米国と日本で試みられてきた. 米国では1931年頃アマモ場の衰退現象（Wasting Diseaseといわれている）が起こり.自然保護のためアマモ場を回復させようとAddy（1947）によって造成研究が行われたのが最初である（1988,川崎）. 日本では1960年代以降,山口県,大分県,広島県,岡山県,大学や国の研究機関,民間企業などで様々な取り組みや研究がなされてきた. 近年においても,沿岸環境におけるアマモ場の役割・機能についての研究はさらに進められ,従来からよく知られている“海のゆりかご”としてだけでなく,温室効果ガスCO_2を固定するブルーカーボンとしての役割や赤潮発生抑制効果,溶存酸素供給源としての高い機能など新たな知見が得られている. また,アマモ場再生技術についても,これまでの研究成果が集約され,多くの技術マニュアルやガイドラインが公表されるに至っている. しかしながら,浅場が残されている瀬戸内海西部など一部の沿岸域ではここ数年透明度の向上等によりアマモ場が回復傾向にあるものの,東日本大震災で多くのアマモ場が失われた東北沿岸など,アマモ場再生に苦慮している地域も多く残されているのが実情である.

2016年6月3日～5日の3日間,アマモ場再生活動発祥の地として知られ,ほとんど消滅したアマモ場を30年以上の歳月をかけて約250haにまで回復させた岡山県備前市日生町において,市民や子ども達,行政,研究機関など全国各地でアマモ場再生活動に取り組む様々な立場の人々が集う「全国アマモサミット2016in備前」が開催される. この機会にアマモ研究者が一堂に会し,これまでのアマモ場再生の歩みを振り返り,アマモ場の持つ多面的機能に関する最新の知見を集約してその重要性を再認識するとともに,アマモ場再生技術の現状と課題を総括し,地域と世代をつなぎ,学術と市民活動の垣根を越えて情報共有と交流を図ることにより,我が国沿岸域におけるアマモ場の再生をさらに大きく推進しようとするものである.

沿岸環境関連学会連絡協議会
第32回 ジョイント・シンポジウム
プログラム

9:00（受付開始）

9:30～ 9:35　開会あいさつ　今井 一郎（沿環連代表）

9:35～10:00　アマモ場再生活動30年の歩み ー主旨説明にかえてー
田中 丈裕（NPO里海研）

座長　中村 由行（横浜国大院都市）

10:00～10:30　1.岡山県日生町地先のアマモ場再生に伴う魚類相の変化
中力 健治（岡山水研）

10:30～11:00　2.亜寒帯汽水湖におけるアマモ場の存在が底生生態系に及ぼす影響の評価
門谷 茂（北大院環境）

11:00～11:30　3.瀬戸内海におけるアマモ場のブルーカーボン・シンクとしての役割
堀 正和（瀬戸内水研）

11:30～12:00　4.アマモ場によるCO_2の吸収や炭素隔離（ブルーカーボン）
桑江 朝比呂（港空研）

12:00～13:00　昼休み

座長　平岡 喜代典（広島環保協）

13:00～13:30　5.東北沿岸におけるアマモ場の現状と再生への取り組み
西村 修（東北大院工）

13:30～14:00　6.アマモ場による赤潮抑制の可能性
今井 一郎（北大院水）

14:00～14:30　7.アマモ場の多面的機能
ー周辺生物に及ぼす効果についてー
森田 健二（NPO海辺つくり研究会）

14:30～14:40　休　憩

座長　松田 治（広島大）

14:40～15:10　8.港湾における自然再生事業とアマモ場造成
ーガイドラインと事例ー
古川 恵太（海洋政策研）

15:10～15:40　9.アマモ類の自然再生ガイドラインの作成・実施など水産分野での取り組み
井上 清和（水研機構）

15:40～16:10　10.アマモ場再生技術の現状評価と今後の展開の方向性
磯部 雅彦（高知工科大）

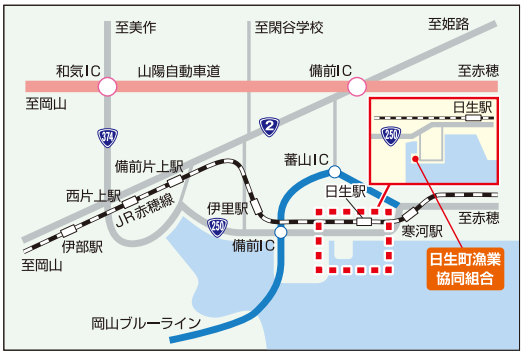
16:10～17:20　総合討論
司会　古川 恵太（海洋政策研）・桑江 朝比呂（港空研）・今井 一郎（北大院水）・田中 丈裕（NPO里海研）

17:20～17:30　総括・閉会の挨拶
大越 和加（日本水産学会水産環境保全委員会委員長）

【主催】沿岸環境関連学会連絡協議会
http://www.s.fpu.ac.jp/wikicoas/
日本水産学会・土木学会海岸工学委員会・沿岸域研究連携推進小委員会・日本海洋学会海洋環境問題委員会・日本水産工学会物質循環研究会・土木学会水工学委員会・日本船舶海洋工学会海洋環境研究会・応用生態工学会・水産海洋学会・日本海洋学会沿岸海洋研究会・日本沿岸域学会・日本ベントス学会・日本プランクトン学会

【コンビーナー】沿岸環境関連学会連絡協議会
NPO法人 里海づくり研究会議 …… 田中丈裕
笹川平和財団海洋政策研究所……古川恵太
（独）港湾空港技術研究所……桑江朝比呂
北海道大学大学院水産科学研究院……今井一郎

【共催】"全国アマモサミット2016 in 備前"実行委員会



日生町漁業協同組合：岡山県備前市日生町日生 801-4

★参加申し込み★　**参加無料**

全国アマモサミットホームページにて4月1日から受付を開始いたしますので、そちらからお申し込みください。
全国アマモサミットホームページ
http://amamo-summit2016.com/

★お問い合わせ先★

岡山市東区金岡町3丁目2-2-4
特定非営利活動法人　里海づくり研究会議
理事・事務局長　田中 丈裕
TEL086-441-1523　FAX086-473-5574
携帯電話 080-6348-7752
E-mail　satoumiken@gmail.com

全国アマモサミット2016 in備前

備前発！里海・里山ブランドの創生 ～地域と世代をつなげて～

think nature AMAMO SUMMIT JAPAN

備前市日生は、海のゆりかごと呼ばれ健全な沿岸環境の維持に欠かせない“アマモ場”再生活動発祥の地として知られています。昭和60年に地元の漁師19名がアマモの種播きに着手したのを皮切りに、30年もの長きにわたり活動を継続してきました。現在では、アマモ研究者をはじめとする有識者はもとより、消費者団体や次世代を担う学生や子ども達も参画し、活動の輪は新たな広がりを見せています。

では、なぜ人はアマモ場の再生を目指すのでしょう?

海のために…。自分のために…。未来の子どもたちのために…。その答えは人それぞれですが、なぜか活動している人たちはみんな『笑顔』で参加しています。

アマモ場の恵みを様々な視点から改めて見直し、このような活動の輪をさらに全国に広げるべく、有識者による基調講演やパネルディスカッションを軸とした「全国アマモサミット2016 in備前」を開催します。

2016年
6月3日㊎～6月5日㊐

開催場所：岡山県備前市（メイン会場：備前市立日生市民会館）

参加・宿泊のお申し込みは大会ホームページから（4月1日より募集開始）

6月3日㊎

◆ **沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウム**
9：30～17：30【日生町漁業協同組合】入場無料
『我が国沿岸域におけるアマモ場再生への道～これまでとこれから～』

◆ **流れ藻回収大作戦** 参加無料
14：20～16：00【日生町漁業協同組合 14：00集合】
※大会ホームページより事前登録が必要です。

6月4日㊏

◆ **全国アマモサミット** 入場無料
9：30～17：00【備前市立日生市民会館】
第1部『アマモ場再生活動30年の歩み～振り返りと将来展望～』
第2部『アマモ場再生への道～里海づくりが目指すもの～』
第3部『里海・里山ブランドの発信～地域と世代をつなげて～』

◆ **レセプション 18：00～20：00**
参加費：5,000円　※大会ホームページより事前申し込みが必要です。

6月5日㊐

◆ **海辺の自然再生・高校生サミット** 入場無料
9：00～12：10【備前市立日生市民会館】

◆ **全国アマモサミット クロージングイベント** 入場無料
12：10～12：30【備前市立日生市民会館】

同時開催 ◆ **里海体験ツアー、観光ツアー**
※大会ホームページより事前申し込みが必要です。

【主催】全国アマモサミット2016 in備前 実行委員会
大会長：吉村武司（備前市長）
実行委員長：田中丈裕（NPO法人 里海づくり研究会議 理事・事務局長）
構成：日生町漁業協同組合・伊里漁業協同組合・備前商工会議所・備前東商工会・備前観光協会・
㈳岡山県備前焼陶友会・笹川平和財団海洋政策研究所・NPO法人里海づくり研究会議・
認定NPO法人共存の森ネットワーク・NPO法人海辺つくり研究会・ 生活協同組合おかやまコープ・
（公財）おかやま環境ネットワーク・岡山県・備前市

【共催】沿岸環境関連学会連絡協議会
構成：日本水産学会・土木学会海岸工学委員会・
沿岸域研究連携推進小委員会・日本海洋学会海洋環境問題委員会・日本水産工学会物質循環研究会・
土木学会水工学委員会・日本船舶海洋工学会海洋環境研究会・応用生態工学会・水産海洋学会・
日本海洋学会沿岸海洋研究会・日本沿岸域学会・日本ベントス学会・日本プランクトン学会

【後援】環境省・水産庁・国土交通省中国地方整備局・岡山市・倉敷市・瀬戸内市・玉野市・笠岡市・
浅口市・全国漁業協同組合連合会・ 岡山県漁業協同組合連合会・NHK岡山放送局・山陽新聞社・
朝日新聞岡山総局

【協賛】生活協同組合おかやまコープ・東海シーブロ㈱はりまフレッシュ事業部・金平鉄鋼㈱・満長建設工業㈱・
㈱エイト日本技術開発・アイサワ工業㈱・橋本産業㈱・日生信用金庫・岡山県漁業協同組合連合会・
岡山県漁船保険組合・東備水産振興協議会・クラレケミカル㈱・キリンビールマーケティング㈱ ほか

★お問い合わせ先★

全国アマモサミット2016 in備前 実行委員会事務局
（備前市まち産業課 里海・水産係）
〒705-8602 岡山県備前市東片上126番地
TEL：0869-64-1836　FAX：0869-64-1850
大会ホームページ http://amamo-summit2016.com

アマモサミット プログラム

※プログラムは変更される場合があります。ご了承ください。

6.3 金

■沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウム
「我が国沿岸域におけるアマモ場再生への道～これまでとこれから～」
9：30～17：30【日生町漁業協同組合】

全国のアマモ研究者が一堂に会し、アマモ場の重要性を再認識し、アマモ場再生技術の現状と課題を総括する議論を覗いてみませんか？

■流れ藻回収大作戦
14：20～16：00【日生町漁業協同組合 14：00集合】

アマモ場再生活動の一環としておこなう流れ藻の回収を、日生中学校の生徒たちと共に体験してみませんか？

※大会ホームページより事前登録が必要です。乗船数に限りがありますので先着順で定員となり次第締め切りとさせていただきます。

6.4 土

■全国アマモサミット 9：30～17：00【備前市立日生市民会館】
8：30～ 受付開始（開場9：00～）
9：30～ オープニングセレモニー（日生中学校吹奏楽部）

第1部『アマモ場再生活動30年の歩み～振り返りと将来展望～』

10：15～ 基調講演Ⅰ「岡山県日生のアマモ場再生の特徴ー
水産業の過去の教訓と経験の活用と広域的な人のつながり」
九州大学大学院工学研究科　准教授　清野聡子氏

10：35～ 基調講演Ⅱ「人と海に学ぶ海洋学習 ～日生中の挑戦～」
日生中学校　教諭　藤田孝志氏

10：50～ 日生中学校生徒による演劇「海に種まく人々」

11：30～ パネルディスカッション「海の守人達の声」
■コーディネーター：日生中学校の卒業生
■進行サポート：認定NPO法人共存の森ネットワーク事務局長　吉野奈保子氏
■パネリスト：淵本重廣氏、藤生泰三氏、磯本洋氏、川淵義徳氏、早川雅清氏【日生の漁師】、本田満寿美氏【元つぼ網組婦人部】、田中丈裕氏【NPO法人里海づくり研究会議】

12：15～13：15 昼休憩

第2部『アマモ場再生への道～里海づくりが目指すもの～』

13：15～ 基調報告「沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウム
我が国沿岸域におけるアマモ場再生への道～これまでとこれから～」の成果報告
北海道大学大学院水産科学研究院　教授　今井一郎氏

13：30～ パネルディスカッション「全国各地の取り組み～地域をつなぐ里海づくり～」
■コーディネーター：九州大学　名誉教授　柳哲雄氏
■パネリスト：木村尚氏【東京湾】、佐藤伸寿氏【東松島市】、藤田孝志氏【日生中学校】、西野ひかる氏【小浜湾】、川畑友和氏【指宿市】、岩井克巳氏【大阪湾】、平賀大蔵氏【三重県】

14：55～15：05 休　憩

第3部『里海・里山ブランドの発信 ～地域と世代をつなげて～』

15：05～ 基調講演「"里山資本主義"から"里海資本論"へ」
NHKエンタープライズ　エグゼクティブ・プロデューサー　井上恭介氏

15：35～ パネルディスカッション「備前発！里海・里山ブランドの創生～地域と世代をつなげて～」
■コーディネーター：笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究調査部部長　古川恵太氏
■パネリスト：井上恭介氏【NHKエンタープライズ】、天倉辰己氏【日生町漁協】、森本温美氏【生活協同組合おかやまコープ】、平川忠氏【備前焼作家】、藤井和平氏【笠岡市漁協】、渋澤寿一氏【認定NPO法人共存の森ネットワーク】

18：00～ レセプション　会費 5,000円
※大会ホームページより事前申し込みが必要です。

6.5 日

■海辺の自然再生・高校生サミット
9：00～12：10【備前市立日生市民会館】

主催：NPO法人海辺つくり研究会
認定NPO法人共存の森ネットワーク
助成：一般財団法人セブン-イレブン記念財団（予定）
全国各地の小・中・高校生による活動発表＆意見交換

■全国アマモサミットクロージングイベント
12：10～12：30【備前市立日生市民会館】

12：10～ 大会宣言　田中丈裕実行委員長
（NPO法人里海づくり研究会議理事・事務局長）

12：20～ 次期開催地PRと引き継ぎ式

同時開催

◆ 里海体験ツアー、観光ツアー

30年間継続してきたアマモ場再生活動の成果を感じてみませんか。
※大会ホームページより事前申し込みが必要です。

市民によるアマモ花枝の採集
アマモ場内に群れるメバル幼魚
日生中学校生徒による流れ藻回収

“全国アマモサミット 2016 in 備前”大会宣言

私達は、日生の漁師たちによる 30 年以上にも及ぶアマモ場再生活動を振り返り、あきらめることなく続けることの大切さを知ることができました。そして地道な努力の継続によって得られた成果こそが大きな感動を生み、地域を越えて、世代をつないで活動の輪を広げることを学び、これから歩むべき道を考えることができました。

私達は、全国津々浦々の如何に多くの場所で、海を守るために、どれだけ多くの人たちが様々な活動に取り組んでいるかを知ることができました。そして、色々な立場や職業の人たち、小学生・中学生から高校生、大人に至るまで、あらゆる世代の人達が、海を大切に思い、団結し努力していることを知ることができました。

私達は、海が健全であり続けるためには、森・里・川・海のそれぞれにおいて、人が生きていくための営みを保ちながら、人々が暮らしを通じて適切に関わり、水を介した森里川海の繋がりを維持することが大切であり、そして、これを守るためには、里海と里山とまちが人とものの流れで結ばれることが大切であることを学びました。

私達は、地球生態系のなかで生かされ、地球生態系は大きな物質循環の中で維持されています。水を介した森里川海の流れの終結点は海ですが、漁業という営みを通じて人が関わることで海から陸への回帰循環が生み出されます。
人は、自然の営みに頼らなければ生きていくことはできません。そして、自然を守り育むことこそ、人が生きていくための道筋です。

私達は、“全国アマモサミット 2016 in 備前”を契機として、

一. 私達の未来そのものである若者を育て応援します。
一. 備前の歴史をつむぐ五感に訴える食の文化を継承し、訪れる人をもてなします。
一. 「よーまー」なおばさん、互いに家族のような関係で「オセ」になる日生の懐の深い人の繋がりを礎に・・・。

そして、全国のまち・学術・ＮＰＯのネットワークをさらに広げ、里海・里山・まちが繋がる「備前発！里海・里山ブランド」を必ずや確立して発展させ、自然と人が共存するための有るべき姿を実現し、国内外に広く発信し続けることをここに宣言します。

2016 年 6 月 5 日
全国アマモサミット　２０１６ in 備前　参加者一同
全国アマモサミット　２０１６ in 備前　実行委員会一同
岡山県備前市日生の地にて

アマモ場再生活動30年の歩み
～“全国アマモサミット2016 in 備前”に思うこと～

[KEYWORDS] つぼ網／里海・里山・まち／人づくり

田中丈裕●NPO里海づくり研究会議理事・事務局長、全国アマモサミット2016 in備前実行委員長

はじまりのはじまり

筆者がつぼ網漁師の本田和士氏に初めて会ったのは、1981年盛夏、岡山県の水産技師として水産業改良普及員をしていた頃のことであった。

国を挙げて栽培漁業が華やかなりし頃…その日は日生（ひなせ）町漁協の職員や組合員総出で、囲い網で中間育成していたクルマエビ種苗の放流作業であった。備前市日生は、岡山県東端に位置する古くから漁業の盛んな地域である。当時27歳だった筆者は、長さ300mの囲い網を引き上げるため、潜って“いわ”（沈子チェーン）をはずしていった。潜水作業を終えて陸に上がると、大勢の中で皆にてきぱきと指示しながら要領よく作業をこなしていく人がいる。その人こそ、当時つぼ網組の組長を務めていた本田氏（後の組合長）であった。

しばらく立ち話をするうちに、本田氏は座り込んで大きなため息をついてから、海を見ながら熱っぽく語り始めた。「稚魚を放流するだけでは魚は戻らない。日生の海は本来アマモの海、まずこれを回復させないと…」という。つぼ網（小型定置網）は、魚の通り道に網を仕掛けて獲る待ち受け漁法である。つぼ網漁師は、地先沿岸に広く点在する網代での長年の漁の経験を通じて、さまざまな魚介類の生活史や成長・季節変化に伴う移動経路を熟知している。そして、日がな一日、破れた網を浜に広げ繕いながら海と向き合ってきた。本田氏は、稚魚の育つ場所と成長して移動していく過程で棲み場所の環境が整っていないと、いくら稚魚を放流しても駄目だというのである。

日生の海には1950年代まで約590ヘクタールものアマモ場があったが、1985年には約12ヘクタールまで激減、その後さらに減少して僅か5ヘクタールになってしまった。岡山県水産試験場としても、1960年代に入ってからの県下アマモ場の著しい衰退現象に危機感を募らせており、1979年からアマモの種子採取技術の開発に着手、ついに1985年に実用化させた。この朗報を知った日生の漁師たちは、水産試験場にすぐさま連絡を取り、協力を要請、つぼ網組漁師19名、青年部の有志4名とわれわれの総勢26名で、アマモ場再生に取り組み始めたのは同年のことである。

諦めず続けてきたからこそ今がある

2016年6月3～5日、日生の地において、「全国アマモサミット2016 in 備前 備前発！里海・里山ブランドの創生～地域と世代をつなげて～」*が開催され、筆者が実行委員長を務めた。6月3日、日生中学校の生徒達と外部からの一般参加者協働による「流れ藻回収大作戦」と沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイント・シンポジウムからのスタートであった。

全国アマモサミット2016 in 備前のポスターとロゴマーク

シンポジウムのテーマは「我が国沿岸域におけるアマモ場再生への道～これまでとこれから～」である。アマモ研究者が一堂に会し、漁師達とともにこれまでのアマモ場再生の歩みを振り返り、アマモ場の持つ多面的機能に関する最新の知見を集約してその重要性を再認識するとともに、アマモ場再生技術の現状と課題を総括することができた。

6月4日には全国アマモサミット2016 in 備前の本大会が開催された。第1部「アマモ場再生

活動30年の歩み～振り返りと将来展望～」の目玉は、日生中学校生徒による演劇『海に種まく人々』である。日生における30年に及ぶアマモ場再生の歩み、打ちのめされながらも挫けることなく250ヘクタールまで回復させた経緯、回復を見届けた後の本田氏の急逝など、人間ドラマを子供たちが見事に熱演し、会場は笑いと涙と感動の渦に巻き込まれ、いつまでも鳴りやまぬ拍手を呼んだ。これに続くパネルディスカッション「海の守人たちの声」では、劇中の主な登場人物である漁師たちが登壇し、日生中学校を卒業した2人の高校生がインタビュアーになって、彼らの熱い思いを引き出していく趣向である。積年の苦楽に裏打ちされた本物の漁師たちの声に、会場は一気にひとつになっていった。

日生中学校生徒たちによる演劇

第2部「アマモ場再生への道～里海づくりが目指すもの～」は、前日のジョイント・シンポジウムの成果報告に始まり、パネルディスカッション「全国各地の取り組み～地域をつなぐ里海づくり～」では、全国の浜で活躍する7名が登壇し、会場からの質問や意見、提案などが止むことなく大いに議論が盛り上がった。第3部のパネルディスカッションのテーマ「備前発！里海・里山ブランドの創生～地域と世代をつなげて」は、本サミットのメインテーマそのものである。笹川平和財団海洋政策研究所の古川恵太氏をコーディネーターとして、「里海」、「里山」そして「まち」から、漁師、陶芸作家、消費者、NPOなどさまざまな立場から6名のパネリストが登壇し、冒頭から会場の参加者を巻き込むスタイルで進行しながら、いよいよ熱を帯びた議論が展開された。

6月5日の「第4回海辺の自然再生・高校生サミット」では、若い世代ならではの新鮮な発想とエネルギーに溢れる発表が繰り広げられた。3日間にわたる会期中の参加者数は北海道から沖縄まで全国から2,000名に達した。

全国アマモサミットから新たなステップへ

『海が健全であり続けるためには、森・里・川・海のそれぞれにおいて、人が生きていくための営みを保ちながら、人々が暮らしを通じて適切に関わり、水を介した森里川海の繋がりを維持することが大切である。われわれは、地球生態系のなかで生かされ、地球生態系は大きな物質循環の中で維持されている。われわれは、これを守っていくために、われわれの未来そのものである若者を育て、地域を越えた人の繋がりを礎にネットワークをさらに広げ、「里海」・「里山」・「まち」がつながり、自然と人が共存するための有るべき姿を実現し、国内外に広く発信し続けることを、ここに宣言する』。最終日の6月5日のクロージングイベントにおいて、子供たちや高校生たちとともに発表した全国アマモサミット2016 in 備前大会宣言の主旨である。

高校生たちと"全国アマモサミット2016 in 備前"大会宣言を発表する筆者（中央）

備前市は、この大会宣言を礎に、沿岸域の総合的管理を基軸として、里海・里山ブランドの創生と真の意味での循環型地域社会の実現を目指そうと動き出した。

それぞれの地域で人々が生きていくのに最も重要なのは、それぞれの場所、場所で積み重ねられた経験とそこに生きる人たちの環境への深い理解と情熱である。「里海」や「里山」の資源・資本とは「人」そのものである。やはり、「里海づくり」は「人づくり」なのである。そのことを海の先輩たちは教えてくれたのだと、この度のサミットを終えてひしひしと感じている。（了）

※　全国アマモサミット2016 in 備前 http://amamo-summit2016.com/

●速報:2016年8月25日付で日生町漁業協同組合が「アマモ場の再生」の功績で、第9回（平成28年）海洋立国推進功労者表彰を受賞。
詳細はこちら http://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji01_hh_000374.html

第9回海洋立国推進功労者表彰受賞者

2. 海洋に関する顕著な功績 分野

自然環境保全 部門

団体名称	日生町漁業協同組合	
所　属		
功績の概要	アマモ場の再生	

功　績　事　項

1．日生町漁業協同組合は、昭和 60 年から 30 年もの長きにわたり、アマモ場の再生活動を継続してきた。活動を開始した頃、アマモの再生に係る知見は限られていたが、漁業者や県水産試験場による多くの試行錯誤の結果、一時は 12ha までに減少した日生町地先のアマモ場を、約 250ha まで回復させることに成功した。

2．日生町漁業協同組合のアマモ場再生活動は全国の先駆けとなる取組であり、日生町は「里海づくり」の聖地として注目を集めている。近年では、漁業者だけでなく、消費者団体や次世代を担う生徒・学生たちもアマモ場再生活動に参加するなど、活動の輪は新たな広がりを見せており、国内さらには世界各国においても模範事例として紹介されている。

3．平成 28 年６月には、活動の節目として「全国アマモサミット 2016 in 備前」を開催し、地域、世代を超えてさらなる活動の発展を目指している。

花枝（種子）の採取

地元中学校との協働
（右上は選別したアマモの種子）

日生町漁業協同組合「海洋立国推進功労者表彰」受賞記念事業

地域をつなぐ里海・里山交流シンポジウム

～里海・里山ブランドとは？～

2016年6月3日～5日，アマモ場再生活動発祥の地として知られる岡山県備前市日生において，第9回全国アマモサミット2016 in 備前「備前発！里海・里山ブランドの創生～地域と世代をつなげて」が開催されました。北海道から沖縄まで全国からの参加者数は2,000名に達し，新たなステップに踏み出すための大いなる成果が得られました。そして，その場において，『自然を守り育むため，全国のまち・学術・NPOのネットワークをさらに広げ，里海・里山・“まち”を繋げる「里海・里山ブランド」を確立して発展させ，自然と人が“共生”するための有るべき姿の実現を目指す。』との大会宣言が採択されました。

「里海・里山ブランド」とは，里海・里山づくりを担う人々，そこを訪れる人達にとって価値あるイメージの総称であり，関わった誰もが幸せになる世界観そのものです。そして，それは里海・里山に育つ子供たち，そこを訪れる子供たちの未来のために資するべきものです。　里海・里山ブランドとは？･･･その意味と価値は？ なにをすべきか？ 里海と里山と“まち”から，それぞれの立場と視点で考えたいと思います。

日　時：平成２９年２月１８日（土）
　　１３：００～１７：００（開場 12:30）
場　所：オルガ地下ホール[TEL]086-254-7244
　　岡山市北区奉還町 1-7-7（岡山駅西口）

主　催：環境省・NPO 里海づくり研究会議・
　　日生町漁業協同組合・生活協同組合おかやまコープ
　　・(公財) おかやま環境ネットワーク
後　援：岡山県・備前市・真庭市・笠岡市・岡山市
参加費：無　料
申込み：2月10日までに 裏面
「参加申込書」により郵送・
FAX・メールでお願いします

岡山ESDプロジェクト参加事業

★★★プログラム★★★

13:00～13:10　開会あいさつ
環境省中国四国環境事務所長　牛場　雅己　氏

13:10～13:50　基調講演Ⅰ
里海から　九州大学名誉教授・NPO 里海づくり研究会議　副理事長　柳　哲雄　氏

13:50～14:30　基調講演Ⅱ
里山から　認定 NPO 共存の森ネットワーク　理事長　澁澤　寿一　氏

14:30～14:40　休　憩

14:40～16:50　パネルディスカッション『里海・里山ブランドとは？』

〈コーディネーター〉
広島大学名誉教授・NPO 里海づくり研究会議　理事長　松田　治　氏

〈パネリスト〉
里海から　日生町漁業協同組合　専務理事　天倉　辰己　氏
笠岡市漁業協同組合　北木島支所長　藤井　和平　氏
恩納村漁業協同組合　代表理事組合長　山城　正巳　氏
九州大学名誉教授・NPO 里海づくり研究会議　副理事長　柳　哲雄　氏
里山から　認定 NPO 共存の森ネットワーク　理事長　澁澤　寿一　氏
真庭市　副市長　吉永　忠洋　氏
“まち”から　岡山市　市民協働局 ESD 推進課　主査　友延　栄一　氏
生活協同組合おかやまコープ　理事　大岸貴美子　氏

16:50～17:00　閉会あいさつ（総評）
広島大学名誉教授・NPO 里海づくり研究会議理事長　松田　治　氏

〈司会〉　NPO 里海づくり研究会議理事・事務局長　田中　丈裕　氏